

マテリアリティ

労働安全衛生の推進

安全重点施策

安全に強い人づくり

従業員の危険感受性の向上を目的に、危険予知(KY)研修を実施しています。受講者が中心となり職場単位で危険予知訓練(KYT)を実施展開することで不安全状態に気付くことができ、不安全行動をしない人づくりをしています。

同様に、設備や作業のリスクアセスメント(RA)研修を実施しています。受講者が自職場のRAに参画することで、RA実施水準の向上を図っています。また、RAの手順である危険源(ハザード)の特定、それによるリスクの見積りを理解してもらうことで、起こりうる潜在的なリスク、人の不注意からなる行動、焦りからなる行動、近道行為なども想定できる安全に強い人づくりを目指しています。

設備の本質安全化

設備や作業環境のリスクアセスメントを継続的に行い、顕在的、潜在的なリスクの低減を図っています。設備の安全カバーやインターロックなどの工学的措置のほか、手順書やルールなどの管理や、保護具により設備や作業の安全対策を実施しています。また、残されたリスクは全社統一の残留リスク管理運用に則り、残留リスク管理表に記載、これをもとに設備には残留リスクレベルを表示するシールを貼り見える化し、作業員へは当該設備の残留リスク教育を実施し危険個所の周知をしています。

安全を支える仕組みづくり

当社グループの安全を支える仕組みづくりとして労働安全衛生マネジメントシステムの導入を進めています。マネジメントシステムを継続的に運用しPDCAを回していくことで法令遵守と安全衛生水準の向上を図っていきます。

当社のすべての製造事業所で国際規格であるISO45001^{*1}の認証取得を完了しています。

国内製造関係会社16社においても、2社がISO45001の認証取得を、8社がJISHA方式OSHMS^{*2}の認証取得を、2社がGSC^{*3}の評価取得を完了しています。現在4社の関係会社においてGSCの評価取得を推進中です。海外関係会社においても5社がISO45001の認証を取得しています。

労働災害が発生した場合は、労働災害報告書にて労働災害の発生状況や対策などの情報共有、横展開を行っています。休業災害が発生した場合、あるいは同一職場(課)で年度内に複数回の労働災害が発生した場合は、他事業所の安全担当で構成する監査メンバーで、再発防止のための安全監査を実施しています。

現地で当該職場の安全活動を確認し、現場の安全管理体制の有効性を確認します。

発生した労働災害についても、被災者がなぜそのような行動をとったのか、根本原因をとらえ対策につなげるよう指導しています。

- *1 ISO45001：労働安全衛生マネジメントシステムの国際規格
- *2 JISHA方式OSHMS：厚生労働省の「労働安全衛生マネジメントシステムに関する指針（OSHMS指針）」に準拠した国内規格
- *3 GSC：厚生労働省の中小規模事業場労働安全衛生評価事業（グッド・セーフティ・カンパニー）

健康経営*の推進

健康経営優良法人(ホワイト500)3年連続の認定

当社は経済産業省と日本健康会議が共同で選定する「健康経営優良法人2023大規模法人部門(ホワイト500)」に認定されました。今年で3年連続の認定となります。

「健康経営優良法人認定制度」とは、特に優れた健康経営を実践している企業を認定する制度です。今年には2,676法人が認定を受け、そのうち当社も含め上位500法人が「ホワイト500」の認定を取得しました。

本調査は、企業の健康課題に即した取り組みや健康増進の取り組みを、「経営理念・方針」や「制度・施策実行」、「組織体制」などの観点から評価し、今年健康経営層の健康課題に対する姿勢や会社の推進体制などを評価する「組織体制」の項目において、機械業種の企業の中でトップクラスの評価を受けました。

*健康経営はNPO法人健康経営研究会の登録商標です。



健康経営優良法人(ホワイト500)
の認定ロゴ

「労働安全衛生の推進」に関するそのほかの取り組みは、Webサイトをご参照ください。
<https://www.ntn.co.jp/japan/csr/sc/employee.html>